

米国 耐久財受注の調整局面持続 (06年12月耐久財受注)

発表日：2007年1月26日 (金)

～受注残が積み上がっていること等から2007年1-3月期の機械・ソフトウェア投資は加速しよう～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : sei_ji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

耐久財受注 (Advance Report on Durable Goods Manufacturers' Shipments and Orders)

	出荷				受注				在庫			
	耐久財	除く輸送機器		非国防資本財 除く輸送機器	耐久財	除く輸送機器		非国防資本財 除く輸送機器	耐久財	除く輸送機器		非国防資本財 除く輸送機器
05/2Q	+0.9	+0.7	(+7.9)	+1.2	+5.4	+1.2	(+8.7)	+1.6	▲0.3	▲0.1	+0.0	
05/3Q	+1.2	+1.4	(+6.3)	+1.5	▲0.2	+2.3	(+8.8)	+1.5	+0.4	+0.5	+1.9	
05/4Q	+3.7	+3.4	(+7.9)	+3.1	+7.0	+2.4	(+9.3)	+2.4	+1.1	+0.9	+0.3	
06/1Q	+1.2	+2.8	(+8.5)	+2.5	▲1.5	+2.8	(+9.0)	+3.9	+0.9	+1.5	+1.5	
06/2Q	+1.1	+1.3	(+9.1)	+1.4	+1.5	+2.5	(+10.3)	+0.9	+2.8	+2.6	+1.4	
06/3Q	+0.2	+1.3	(+9.0)	+1.7	+2.3	+0.9	(+8.8)	+3.5	+2.9	+3.4	+3.1	
06/4Q	▲0.5	▲1.5	(+3.8)	▲0.9	▲0.4	▲1.8	(+4.4)	▲1.6	+1.5	+1.5	+1.8	
06/06	+0.2	+0.6	(+10.2)	▲0.2	+3.3	+1.8	(+10.0)	+0.9	+0.9	+0.7	+0.6	
06/07	▲1.3	+0.3	(+10.8)	+1.5	▲2.8	▲0.1	(+13.4)	+0.6	+1.1	+1.1	+0.9	
06/08	+2.1	+0.8	(+9.4)	+1.3	+0.0	▲1.3	(+6.4)	+1.1	+0.7	+1.2	+1.0	
06/09	▲2.7	▲2.1	(+6.7)	▲1.6	+8.7	+0.5	(+6.8)	+3.1	+1.2	+1.1	+1.1	
06/10	+0.2	▲0.1	(+5.2)	▲1.5	▲8.1	▲1.8	(+4.7)	▲4.0	+0.8	+0.6	+0.5	
06/11	+0.3	▲0.3	(+4.2)	+2.1	+2.2	▲1.0	(+3.4)	▲1.0	+0.3	+0.3	+0.2	
06/12	+0.8	▲0.1	(+2.1)	▲0.3	+3.1	+2.3	(+5.1)	+2.4	+0.4	+0.6	+1.1	

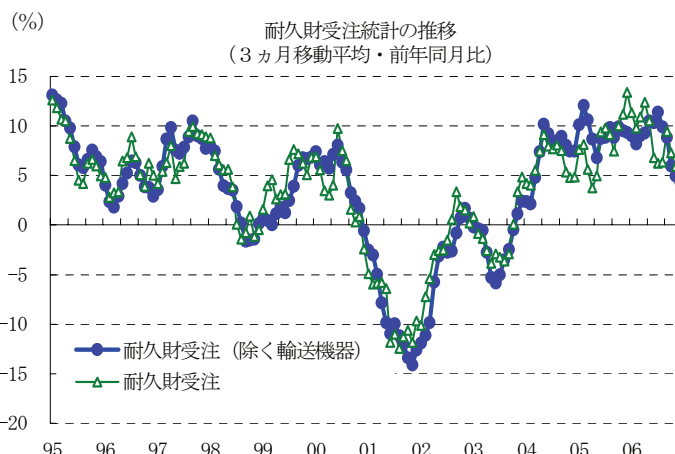
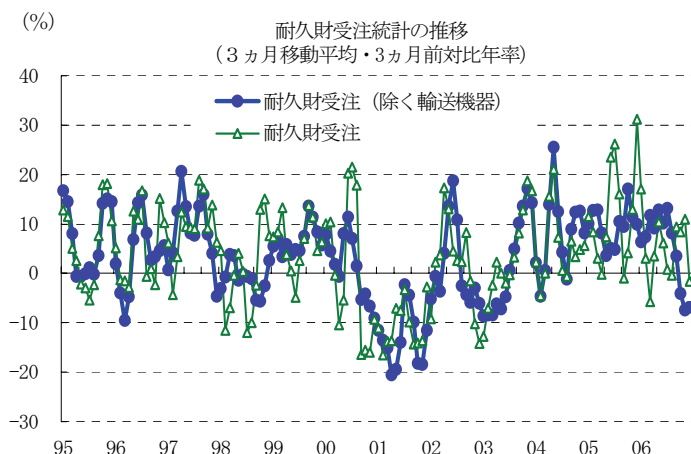
(出所) 商務省

(注) 四半期は前期比、月次は前月比伸び率。 () 内は季節調整値の前年比。

耐久財受注が前月比 +3.1%に加速、輸 送機械を除く耐久財 受注は同+2.3%と 3ヵ月ぶりの拡大

06年12月の耐久財受注は、前月比+3.1%と前月の同+2.2%から加速し、市場予想の同+3.0%を上回った。航空機、自動車、一般機械等が増加した。もつとも、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では▲1.6% (前月+11.0%) とマイナスに転じておりモメンタムは低下している。

輸送機器を除いた耐久財受注は、前月比+2.3%と3ヵ月ぶりに拡大し市場予想の同+0.5%を上回った。コンピューター・電子製品が鈍化したものの、一次金属、加工金属、一般機械が増加した。しかしながら、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では▲6.9% (前月▲7.4%) とマイナスで推移しており、価格の下落、新OS発売を前にした発注の先送り等を背景に耐久財受注 (除く輸送機器) のモメンタムは低下した。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

高水準の受注残を背景に耐久財生産の急激な鈍化は回避されよう

耐久財在庫が前月比+0.4%と加速したものの、耐久財出荷が同+0.8%と高い伸びとなったため、耐久財在庫率は1.399ヵ月（前月1.405ヵ月）と小幅低下した。さらに、耐久財受注残が同+2.3%（前月同+1.8%）と加速しており、耐久財生産の急激な鈍化は回避されると予想される。

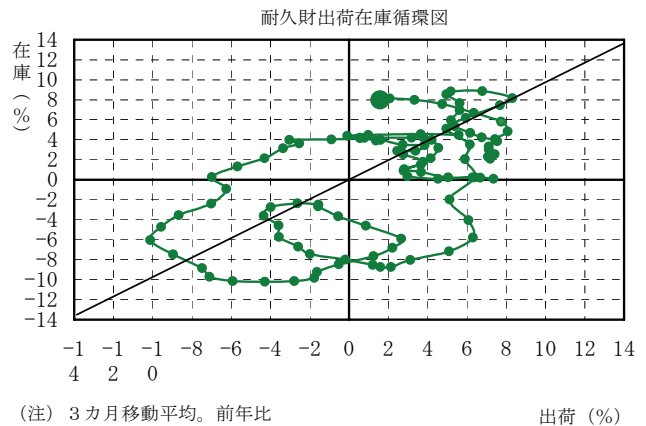
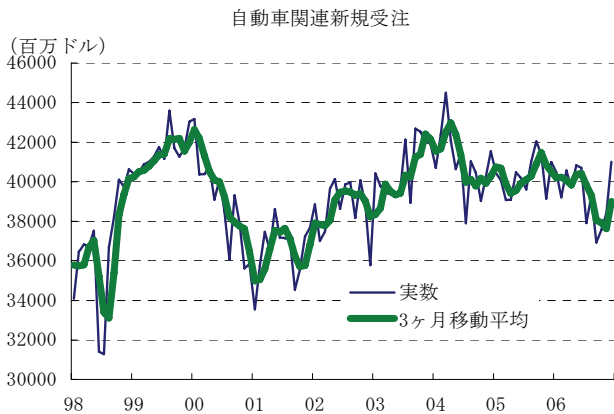
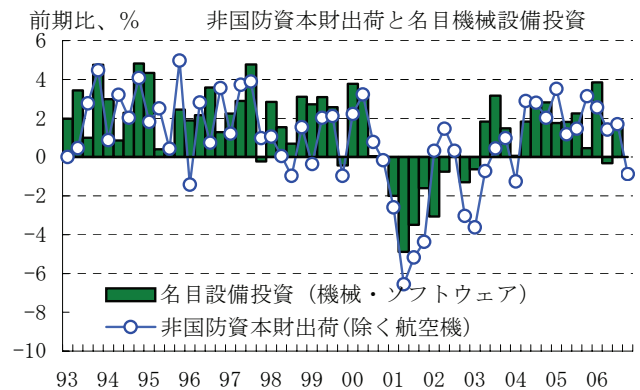
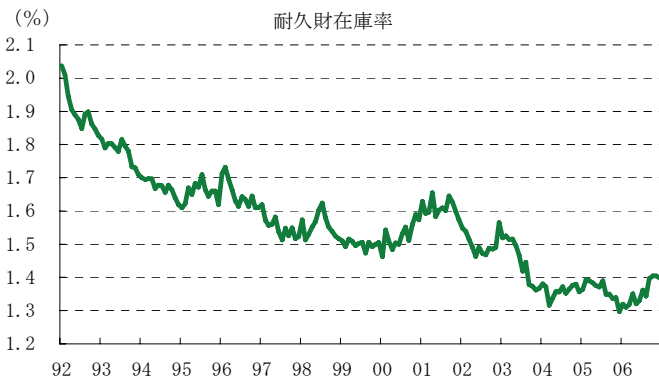
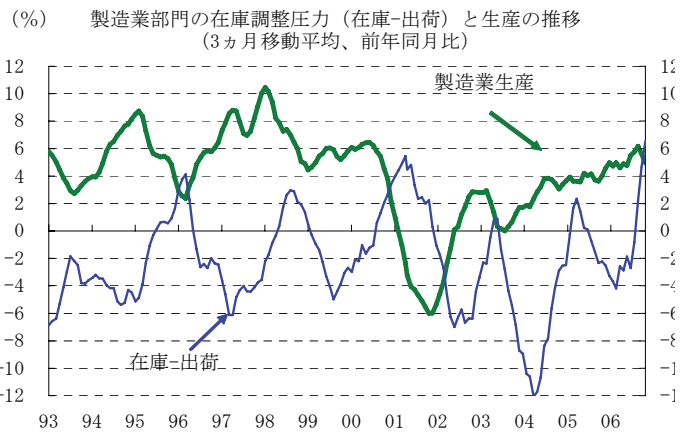
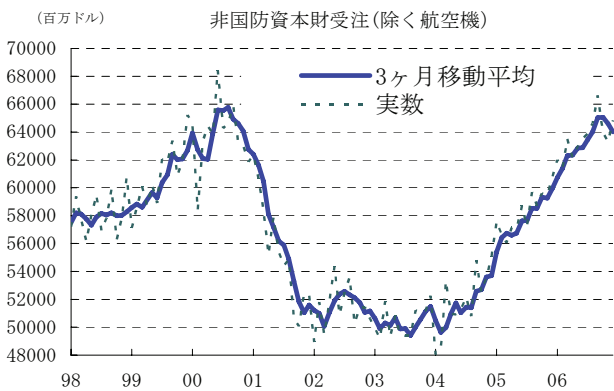
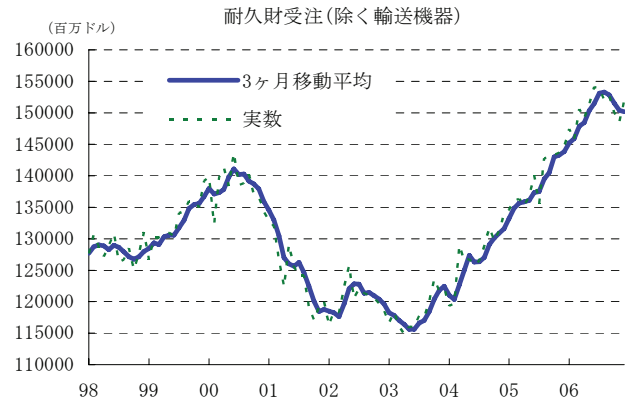
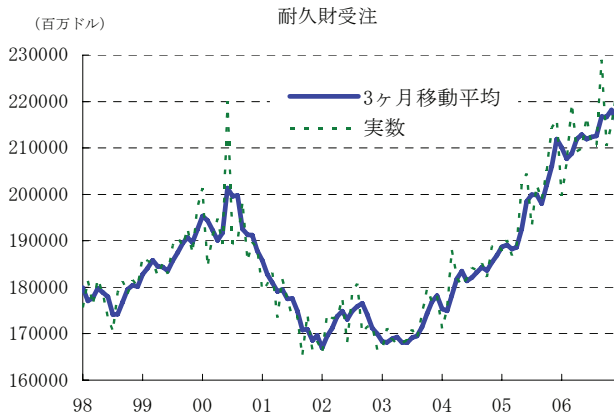
一次金属、加工金属、一般機械、コンピューター・電子製品、輸送機械が増加

業種別の受注動向をみると、電気機器・同部品が減少した一方、一次金属、加工金属、一般機械、コンピューター・電子製品、輸送機械が増加した。コンピューター・電子製品では、通信設備が前月比+8.5%（前月同+11.8%）とプラス幅が縮小し、コンピューター・同関連製品が同▲3.1%（同+36.8%）と下落に転じ、全体でも同+1.0%（同+8.0%）とプラス幅が縮小した。輸送機器は同+4.8%（同+10.2%）と減速した。新車発売の効果等によって自動車販売が堅調さを維持するなか自動車・同部品が同+6.8%（同+2.3%）と加速し3ヵ月連続の増加となった。加えて、ボーイングの受注が増加したことで非国防航空機・同部品が同+26.5%（同+3.8%）と大幅なプラスとなった。一方、国防が同+20.5%（同+47.7%）と減速し、全体の伸びを抑制した。

2007年1～3月期の機械・ソフトウェア投資は加速する見込み

次に設備投資関連の指標をみると、機械・ソフトウェア投資の一致指標である非国防資本財出荷（除く航空機）は12月に前月比+2.1%（前月同▲1.4%）とプラスとなった。しかし、2006年10～12月期では前期比年率▲3.5%（7～9月期同+6.9%）とマイナスに転じており、10～12月期の機械・ソフトウェア投資は低い伸びにとどまろう。

10～12月期には非国防資本財出荷が減少したのと同時に非国防資本財受注（除く航空機）が前期比年率▲6.1%（+14.6%）と落ち込んだ。その一方で、10～12月期の非国防資本財受注残（除く航空機）が同+22.8%と加速したこと、新OSが発売されたことから、2007年1～3月期の出荷は増加に転じると見込まれ、同期の機械・ソフトウェア投資は加速する公算が大きい。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。